第1期中期目標期間に係る業務実績のまとめ

平成23年3月31日 作成 (平成23年5月 第1期評価結果掲載)

国立大学法人 浜松医科大学

第1期中期目標期間に係る業務実績のまとめ 目次

O目標 2
〇組織図
○6年のあゆみ
○大学の基本的な目標の達成に向けた取組状況5
1. 人間性豊かな医療人育成について
〇中期計画の全体的な進捗状況7
1. 大学運営72. 外部有識者の積極的活用73. 財務内容の改善・充実74. 人件費削減に向けた取り組み85. 評価86. 施設マネジメント87. 危機管理体制88. 教育89. 研究活動の推進910. 病院911. 社会貢献・産学連携等9
○国立大学法人制度の運用状況10
〇第1期中期目標期間の業務実績に関する評価 最終評価 23年3月
○参考データ

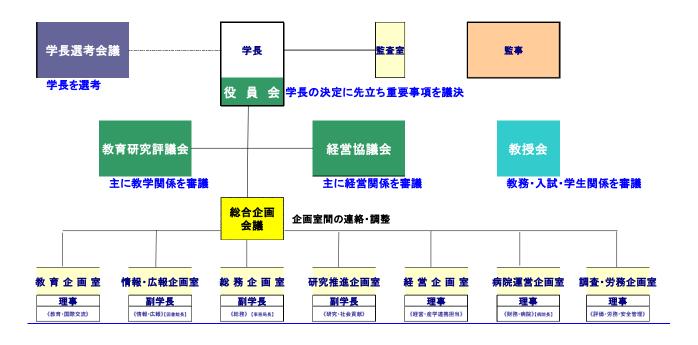
○目標

建学の理念「第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい 医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中心的役割を果たし、 以て人類の健康と福祉に貢献する。」を踏まえ、特に以下の事項について重点的に取り組む。

- (1) 人間性豊かな、生涯にわたって自ら学び、国際的に活躍できる医療人の育成に努力する。
- (2) 先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究において、産学官連携を推進し、国際的に高い水準の研究機関となることを目指す。
- (3) 地域社会の医療、教育、文化のニーズに応じて貢献し、高度先進医療等の病院機能の強化に努める。
- (4) 光医学を中心とした教育・研究・診療活動を推進し、独創的な機関を目指す。
- (5) 近隣の国立大学法人との統合再編について引き続き検討を進める。

○組織図

◇ 浜松医科大学 管理運営組織



○6年のあゆみ

_	,
平成	・国立大学法人浜松医科大学設置
16 年度	・大学院医学系研究科博士課程の専攻を「光先端医学」、「高次機能医学」、
	「病態医学」及び「予防・防御医学」に変更
	・「臨床研修センター」を設置
	・「医療安全管理室」を設置
	・事務局を3部8課2室に改組
	・開学30周年記念式典を開催
平成	・医学部一般教育等の12学科目を「総合人間科学講座」に改組
17 年度	・医学部医学科の「解剖学第一講座」及び「解剖学第二講座」を「解剖学講座」
	に改組
	・医学部医学科の「衛生学講座」及び「公衆衛生学講座」を「健康社会医学講座」
	に改組
	・「栄養部」を設置
	・「化学療法部」を設置
	・「外来化学療法センター」を設置
	・新生児強化治療室(GCU)を開設
	・開放型共同診療を開始(13 床)
平成	・医学部医学科の「微生物学講座」及び「寄生虫学講座」を「感染症学講座」
18 年度	に改組
16 平反	・「子どものこころの発達研究センター」を設置
	・「監査室」を設置
	・診療科「臨床薬理内科」を開設
	- 「腫瘍センター」を設置
	・診療科「形成外科」を開設
	・「分子イメージング先端研究センター」を設置
	・「病院再整備推進事務室 を設置 (3部8課3室となる)
	・地域がん診療連携拠点病院の認可
	2回20次が10回20次は上1分は20元が10回20回20日
平成	・寄附講座「分子診断学講座」を開設
19 年度	・寄附講座「地域医療学講座」を開設
	・「難病医療相談支援センター」を設置
	・医大保育所「きらり」を開設

	・難病医療拠点病院の指定・治験拠点医療機関の認可・立体駐車場竣工・病院開院30周年記念式典を開催
平成	・助産学専攻科を設置
20 年度	・静岡県肝疾患診療連携拠点病院の指定
平成	・大阪大学、金沢大学、浜松医科大学 連合小児発達学研究科に参加(大学院)
21 年度	・事務局部制を廃止(10課2室となる)
	・附属病院新病棟竣工
	・患者用立体駐車場竣工
	・動物実験施設の増築
	・医学部医学科入学定員増 95 人→ 105 人
	(うち5人は平成29年度入学生までの時限的措置)
	・一般病棟の入院基本料 7:1 に変更

平成 ・寄附講座「児童青年期精神医学講座」を開設 ・「診療情報管理部」を設置 ・助産学専攻科入学定員増 10 人→ 16 人 ・医学部医学科入学定員増 105 人→ 115 人 (平成 31 年度入学生までの時限的措置)

○大学の基本的な目標の達成に向けた取組状況

- 1. 人間性豊かな医療人育成について
 - (1) 医療倫理教育のための全学統合一貫プログラムを作成し実施しました。

医学科は、入学直後の福祉施設体験学習、新入生合宿研修、及び学年進行毎に倫理教育を実施しました。

- 2年次「医学概論Ⅱ」
- 3年次「健康社会医学・保健所等体験学習3日間」
- 4年次「医学概論Ⅲ」(医の倫理と医師会の役割、医療倫理)
- 5年次「臨床医学 I |
- 6年次「臨床医学Ⅲ」(医療と社会・医療倫理)

看護学科についても同様の医療倫理教育を各学年に導入しました。

- (2) 平成 19 年度から倫理的思考能力及び討論能力の育成を目指し、少人数制チュートリアル形式で 人間科学ゼミナールを開講しました。
- (3) 基礎医学教育に PBL を導入、臨床実習前専門教育に導入した PBL チュートリアル教育を、学年進行に従って行い、グループワークによる課題解決型学習を多く取り入れました。
- (4) 国際的なコミュニケーション力を身に付け、異文化理解を深めるために語学教育用ソフトを導入し、外国語教育の充実を図り、学生の海外派遣を推進し、国際交流協定校との交流を促進しました。
- (5) 国際的に活躍できる医療人育成のため、大学院生の海外での国際学会発表に対して旅費を支援しました。韓国慶北-浜松合同医学シンポジウムを定期的に開催しています。医学科及び看護学科生徒をそれぞれ慶北大学校へ派遣し実習体験を行いました。
- 2. 先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究について
 - (1) 浜松知的クラスター計画では、静岡大学工学部、情報学部及び豊橋技術科学大学と医工連携を組み、企業との共同研究を進めました。
 - (2) 平成20年度には、本学が提案した「メディカルフォトニクスを基盤とするシーズの実用化開発」が先端医療開発特区(スーパー特区)に採択されました。
 - (3) 平成 21 年度には、地域産学官共同研究拠点整備事業(はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点)の採択により、本学はその拠点として健康・医療関連産業の創出のため医工連携を発展させていくことになりました。
- 3. 病院機能の強化について
 - (1) 地域医療の中核として、患者中心の安全かつ良質な医療を提供することが本学の使命です。近隣の医師会等関係団体と協議の上、開放型共同診療を開始するとともに地域連携室を設置し、病病、病診連携の促進を図りました。
 - (2)「固形腫瘍の DNA 診断」、「腹腔鏡下前立腺摘除術」、「難治性眼疾患に対する羊膜移植術」、「超音波骨折治療法」、「膀胱水圧拡張術」、「CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドの H. pylori

除菌療法」、「インプラント義歯」及び「乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索」 が先進医療として認可されました。

- (3)地域がん診療連携拠点病院、難病医療拠点病院、治験拠点病院等としての組織体制を整備し、地域医療の質の向上及び市民への啓発に努めました。
- (4) 形成外科の新設、不採算分野における RALS(子宮がん放射線治療)、前立腺がんの brachytherapy (密封小線源照射療法)、ライナック(高精度放射線治療装置)等によるがん治療体制を整備しました。64 列、16 列の 2 機の MDCT を更新・導入し、検査時間の短縮、高度画像情報処理を可能とするなど、医療提供体制を整備しました。
- (5) 新病棟に移転し、患者サービスの向上、臨床教育研修環境の改善及び医療安全管理体制を充実させ、特定機能病院としての機能が向上しました。
- (6) 患者紹介に必要な診療情報の電子化を推奨し、X線フィルム等の画像情報を電子的に管理・提供できるシステムを構築しました。

4. 光医学を中心とした教育・研究・診療活動について

- (1) 平成 15 年 9 月に採択された 21 世紀 COE プログラム「メディカルフォトニクス」は、平成 18 年 に光マイクロイメージングの講習会を開き、学外より 58 名の参加者(うち外国人 14 名)がありました。2 回の国際シンポジウムを行いました。23 名の大学院生をリサーチアシスタントとして雇用し、7名のポスドク研究員を雇用して、研究力の向上を図りました。
- (2) 分子解剖学部門では、JST(科学技術振興機構)の先端計測事業の支援を得て、島津製作所と質量顕微鏡の開発を行ってきました。
- (3) 平成 18 年に設置した子どものこころの発達研究センターは、愛知県大府市・大府市教育委員会と連携に関する協定書を締結した他、浜松市とも連携して、子どものこころの問題を医学的に解明する大規模疫学調査を実施しています。また、こころの問題を脳の分子の異常として調べる世界最高水準の研究を進め、自閉症では脳の全領域でセロトニン・トランスポーター密度が低下していることを見出しました。
- (4) 分子イメージング先端研究センターは、平成 19 年に設置され PET 応用研究を進め、同時に研究者への PET 技術の教育を行いました。
- (5) 光量子医学研究センターは、学内と国内及びドイツや中国で、蛍光顕微鏡技術の講習会を開催・支援し、研究者教育を行いました。さらに、光関連機器の企業と先端的医療機器の共同開発を行ました。平成22年3月には、外部委員9名(うち外国人4名)による光量子医学研究センターの外部評価を行い、光科学の医学領域の基礎研究機関としての発展を期待されるなど、光と画像の応用を特徴とする独創的な研究組織となっています。

5. 近隣の国立大学法人との統合再編について

平成 16 年頃より検討してきましたが、統合せず今日まで参りました。現在静岡大学、豊橋技術科学大学と浜松医科大学の3大学長で隔月に懇談会を開いており、これまで以上に連携を強めて行く考えです。医工連携、共同開発、産学連携などについて意見を交換し、プレゼンテーションの開催など活動しております。

○中期計画の全体的な進捗状況

1. 大学運営

- (1) 法人化と同時に7つの企画室(経営、研究推進、教育、調査・労務、情報・広報、病院運営、総務)を設置、4名の理事及び3名の副学長が、大学運営の重要なテーマを分担し、企画立案をしています。
- (2) 効率的運営を図るため組織の改組を行うとともに、安全な医療の遂行、労働基準法の遵守等の観点から人員配置、雇用関係の見直しを行いました。
- (3) 従来より医学科と別組織であった一般教育等を大講座化、医学科の講座の改組など教育研究組織の見直しを行いました。
- (4) 大阪大学大学院大阪大学、金沢大学、浜松医科大学連合小児発達学研究科を設置し、教員の増員を最小限とし、運営はテレビ会議システムを導入して低コストで行っております。こどもの精神発達については、静岡県においても指導医や高度な研究者が少ないことが指摘され、県に働きかけて平成22年度には児童青年期精神医学について寄附講座をいただき、日本の第一人者を招き発展に尽力することにしています。
- (5) 学生の生活支援を目的として、医学部看護学科生、助産学専攻科学生に対し奨学金制度を設けました。

2. 外部有識者の積極的活用

- (1) 学外理事、常勤監事及び非常勤監事には、役員会等において経営、安全管理の視点などから適切な助言をお願いしています。
- (2)経営協議会においては、医学・医療の分野、文部行政経験者、産業界、学識経験者、看護学教育の分野から代表する方々を委員にお迎えし、法人経営に参画していただいています。
- (3) 大学知財アドバイザー派遣事業に採択され、派遣されたアドバイザーの助言、指導等により知財活用推進において、外部資金の取得状況は 20-21 年度は 18-19 年度に比べ、約 4 億円増収しました。それに伴い間接経費も増収し、総計として運営費交付金が減額された分を取り戻し、アドバイザーの役割が重要な意味を持つことが示されました。
- (4) 医の倫理委員会、治験審査委員会等の委員会に学外委員の参加を得るとともに、顧問弁護士と契約し、法律問題に関し助言をお願いしています。

3. 財務内容の改善・充実

- (1) 契約条件の見直し、節約の徹底、新規事業の開始、外部資金の導入等の推進を行い財務内容の改善を図りました。
- (2) 科学研究費補助金申請に際し、研究推進企画室教員がアドバイザーとして指導にあたり、採択状況が 18-19 年度の約 264 件から 20-21 年度は約 271 件に向上しました。
- (3)30年来分散していた研究施設の再整備のため、間接経費により動物実験施設を増築し、これにより、RI研究施設、動物実験施設、産学連携大型機器室等が整備され、既存の研究棟を含めたスペー

スの有効利用が大きくできるようになりました。第2期中期目標に向けて研究のための準備に投資 しました。

(4)目的積立金の活用により法人化以前、予算確保が困難であった建物の建設、教育研究設備等が整備可能となり、業務運営、教育研究について大きく進展しました。35人収容可能な保育所建設、立体駐車場建設、高額研究機器の購入、学生のための解剖学実習室、体育館、及び講義実習棟のトイレ等の改修などを行いました。

4. 人件費削減に向けた取り組み

事務職員、技術職員及び勧奨退職者についても不補充とし、平成 17 年度の人件費予算相当額ベースから 4.4%の削減を達成しました。

5. 評価

- (1) 教育を中心に自己点検評価を実施し、報告書を作成しました。大学評価・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価において基準をすべて満たしているとして認定されました。
- (2) 光量子医学研究センターについて、外部評価を受け、光をキーワードとして多様な研究が展開されて着実な成果をあげていることが高い評価を得ました。
- (3) 副病院長をリーダーとして多職域で点検、評価を行い、日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価を受審し、認定されました。
- (4) 教員、教務員、技術職員の個人評価を実施し、平成 20 年度の本格実施により処遇へ反映しました。

6. 施設マネジメント

- (1) 自己資金等で、学生用にサッカーコートを人工芝化(この人工芝が新病棟の患者にとってすばら しい癒しの景色を作り出している)、視聴覚資料室、基礎臨床研究棟などを改修し、課外活動室を 新築しました。
- (2) 平成 21 年には新病棟が完成し、全体的に建物の面積が増加しましたが、省エネ対策として、平成 21 年に ESCO 事業を導入することによりエネルギー消費量を面積比(原単位)で換算して約 29%の削減を実現しました。

7. 危機管理体制

- (1) 防災マニュアル、危機管理マニュアル等を作成し、災害に対する訓練を定期的に実施しています。 また、学生及び教職員が安心で快適に勉学・教育・研究ができるようハラスメントの防止等に関す るガイドラインを策定しました。
- (2) 薬剤の安全管理に関する教育の徹底、緊急地震速報受信装置の設置、大学内に AED を 4 箇所に設置、セキュリティ対策として新病棟に IC カード方式を導入、などを実施しました。

8. 教育

(1) 静岡県出身の卒業生の大部分が県内に残ることを考慮して、地域医療への貢献を意図した入学者 選抜を実施しました。

- (2) 長期履修制度の導入、夜間開講の講義を設けました。
- (3)子どもの心の障害に科学的知識を持って対応できる人材を養成するため、大阪大学を基幹大学とし、金沢大学、浜松医科大学による連合小児発達学研究科博士課程を設置しました。平成 21 年度に4名入学し、将来は総勢13名の大学院生を収容します。
- (4) 医学科1年次生に小グループによるゼミナール形式の授業を導入し、2年次後期からのPBL教育に繋げるよう、教員と学生が密接なふれあいを持つようにしました。
- (5) 第1期中期目標期間中に海外から、学部留学生2名、大学院博士課程留学生37名、研究生6名、特別聴講学生19名、特別研究学生9名を受け入れました。本学から、6年次生の臨床実習として9カ国53名の学生を海外に派遣しました。平成21年には看護学生2名を協定校である慶北大学校へ派遣し、実習を体験しました。

9. 研究活動の推進

- (1)「光の医学応用」に関する研究は本学の特色ある研究のひとつであり、この研究目標に沿った研究が計画どおり実施され、多くの成果を得ることができました。
- (2) 平成 16 年以来、外部資金の獲得努力に伴い特任教員の数は、平成 21 年度には 36 名となりました。その結果、原著論文数は顕著に増加し、Impact factor も増加しました。

10. 病院

- (1) 7:1 看護体制達成のため、種々の努力を講じてきた結果、平成20年度末58名、21年度末57名 任用し、7:1 看護体制維持が可能となりました。コメディカルの専門性を高めるため各種資格取得 を促進し、認定資格取得者が増えました。
- (2)経営分析・戦略を策定し、専任の副病院長を充て、診療統計院内システムを構築して各科で基本的な診療情報を独自に解析できる体制にしました。診療助教(年俸制常勤医師)制度を設け、診療状況を勘案しながら配置しています。平成21年度には、物流管理委員会を中心に医療材料に精通した専門業者と共同で、1,800万円の削減を図りましたが、この方法で6年間に1億円以上の経費節減を行いました。
- (3) 病棟クラークを採用し、全病棟へ配置しました。平成20年度に新病棟移転計画を策定、21年12月には問題なく移転することができました。
- (4) 平成 20 年 10 月に病院機能評価プレ審査、21 年 3 月本審査を受審、21 年 6 月追加審査を受け、ver. 5 の機能評価で認定されました。

11. 社会貢献等

- (1) 医師不足は静岡県でも厳しい状況であり、県健康福祉部や県医師会と連携して、定期的に対策を 検討しております。
- (2) 市民のニーズを考慮した公開講座、健康相談会を実施し、「いのちの授業」を小中学校で開催しました。
- (3) 県や市の医師会における研修会等に講師を派遣するとともに、学術講演を多数実施しました。

○国立大学法人制度の運用状況

1. 学長の経営方針に沿った教育研究の実現を目指した学長裁量経費の導入

①学長裁量分の予算

学長がリーダーシップを発揮し、教育・研究等の質を向上させるための予算

・教育環境を向上させるための経費

教育用プロジェクター、実習用顕微鏡、課外活動用ボート、課外活動設備 及び福利厚生施設の整備、

臨床実習・看護実習機器更新及び助産学専攻科設置に伴う設備等整備、 体育施設改修、看護学臨地実習の充実、学生用実習室改修、図書館の改修、 電子ジャーナルの充実及び大学情報データベースの構築、病理組織実習室のいす更新、 講義実習棟会議室等改修、看護学臨地実習の充実、講義室(机・椅子)の改修、 動物実験施設の増築、入学定員増に対応した講義室(机・椅子)の改修

・重点的研究を推進させるための経費

RI 動物実験施設改修、P3 レベル感染動物実験システム、企画型基盤成育事業、 キャンパス情報ネットワーク装置等の更新、共同利用設備の研究支援設備、 プロジェクト経費、知的財産活用推進、研究活動及び若手研究者支援、研究の後方支援

・危機管理体制整備のための経費

防災センター整備、防災マニュアル、個人情報保護対策、図書館セキュリティ対策、 宿舎火災報知機の設置、災害用簡易トイレの購入、防災用品の整備、 病理解剖室ホルムアルデヒドばく露防止対策、看護学科棟等の地デジ対応、 法医解剖標本室等ホルムアルデヒドばく露防止対策、研究棟別館、 看護師宿舎照明・駐車場改修

・労働環境を改善するための経費

学内託児所の運営、特定化学物質の測定等

・経営の合理化・改善経費

財務会計事務システム機能改修・補強、財務・監査に係るコンサルタント業務、 事務局ネットワークの更新等

・診療体制の整備及び病院収入の増加を図るための経費

外来化学療法センター新設、形成外科の整備、診療体制を充実させるための人員の増、 医療機器の整備、看護師用更衣室の整備(100人分)、病棟クラークの配置、 手術室放射線シールド対応工事、新病棟セキュリテイ関連工事

②戦略的経費の予算

前述の予算以外に戦略的経費として次の事項に予算配分しました。

- ・総合人間科学講座及び看護学科講座への研究支援
- ・国際共同研究の誘致
- ・プロジェクト研究の推進
- ・科学者を目指す若者(高校生)に対する講義などの活動支援
- ・若手の萌芽的研究の育成
- ・コメディカル領域の研究や社会活動
- ・健康相談会や地域の初中等教育支援
- ・地域医療や公衆衛生に貢献する社会活動の推進
- ・知財の活用を進めるための活動や体制づくり

2. 管理運営組織の設置

役員会 - 重要事項を議決

経営協議会 ― 経営面に関する重要事項や方針を審議 教育研究評議会 ― 教学面に関する重要事項や方針を審議

監事 一 法人の業務を監査

運営のための企画立案体制の整備状況

- ①学長は、7つの企画室(経営、研究推進、教育、調査・労務、情報・広報、病院運営、総務) を設置、4名の理事及び3名の副学長にそれぞれの大学運営の重要なテーマの分担、企画立案 を行わせるとともに、各室長に予算執行の権限を与えています。
- ②毎月、総合企画会議において理事及び副学長が各企画室の企画立案状況を報告し、それに対する意見交換、今後の実施方針等を検討し、承認を受けたものは法令や学内規則に従い事項ごとに役員会、教育研究評議会、経営協議会及び教授会に附議されます。各会議には監事が出席し、直接審議過程を監査しています。

企画立案部門の活動状況

【平成 16~18 事業年度】

- ①特任教員制度を導入
- ②診療助教(医師)の導入
- ③化学療法部を設置
- ④教員に任期制を導入
- ⑤救急部支援を目的として病院全体に変形労働制を導入
- ⑥学内に保育所を設置
- ⑦研究費補助金等の交付前使用に係る立替えの制度を導入
- ⑧浜松医科大学公益通報者保護規程を制定
- ⑨看護師確保対策の一環として、退職手当支給に代えて特別賞与の支給制度を新設
- ⑩リフレッシュ休暇を導入

⑪立体駐車場(職員専用)を建設

【平成 19 事業年度】

- ①留年生の学力維持のための進級判定の見直し
- ②緊急医師確保対策(政府・与党)に基づき、地域定着策の検討
- ③学術機関リポジトリの構築
- ④事務系職員人事評価の第二次試行の実施
- ⑤競争的資金等の使用・運営・管理に関する事務処理手続きマニュアルの作成
- ⑥「ESCO 事業」の導入
- ⑦治験拠点病院活性化事業への参加

【平成20事業年度】

- ①学長特別補佐の設置
- ②緊急地震速報受信装置の導入
- ③入試の海外実施
- ④財務レポートの作成
- ⑤看護学科学生に対する奨学金貸与制度の導入
- ⑥国際交流協定等奨学金の導入
- ⑦学内での重症者発見時の対応システムの構築

【平成21事業年度】

- ① 患者駐車場不足に対応するため立体駐車場(患者専用)を建設
- ②「ESCO事業」の推進

3. 人事関係

- ①国立大学法人化に対応するため、人事課を設置し、国家公務員法から各種労働法への移行を果たすともに適正な労務管理、労使関係が構築されました。全職員に対して学長、労務担当理事及び財務担当理事による職員の労務管理、本学の管理運営状況等の説明会を開催しました。
- ②任期制を広く導入し、任期満了となる教員の再任審査を行い教員の流動化、活性化を図りました。 臨床系医師を除く教員への裁量労働制の導入、救急部などの勤務体制において変形労働制を採用 しました。

4. 中期目標・計画、評価

- ①長期的な目標を明らかにし、具体的な計画を作成して法人評価を受けました。
- ②教育、研究、診療業務全般の活性化を図り、併せて教員の意識改革を求めるため、教員個人の業績や活動状況について点検・評価制度を導入しました。

○第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果

平成23年5月24日通知 国立大学法人評価委員会

全体評価

浜松医科大学は、優れた臨床医と独創力に富む研究者の養成、独創的研究及び新しい医療技術の開発、患者第一主義の診療の実践を大学の基本的目標として掲げ、学長の下に7つの企画室を置き、大学運営の重要なテーマを分担し、総合企画会議において理事及び副学長が各企画室の企画立案を行うことにより、企画立案から実施までのプロセスの効率化・活性化を図りつつ大学運営を行っている。

中期目標期間の業務実績の状況は、平成16~19年度までの評価では、すべての項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」であり、さらに平成20、21年度の状況を踏まえた結果、すべての項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、文書、対話、懇談会等で積極的に聴取した学生及び教員の意見を参考に検討を続け、医学科のプロブレム・ベースド・ラーニング (PBL) チュートリアルに関して「基礎・社会医学」を1つの大ユニットに編成し、6年次の臨床実習6単位を必修にするなど、カリキュラム改革に成果を上げている。

研究については、ワシントン大学、スタンフォード大学、ケンブリッジ大学、ロンドン大学、米国国立精神保健研究所(NIMH)等との共同研究を行い、国際シンポジウムを開催するとともに、知的クラスターについては民間企業、静岡大学と共同研究を推進するなど国際的、地域的共同研究体制を構築している。

社会連携については、静岡県の各種審議会等への参画等を含め、100 近い委員会等へ委員長や委員 を派遣し、地域の医療施策の立案等に深く関与するとともに、浜松市の医療施策の基本方針の策定に 医師やコメディカルを派遣し、地域医療において貢献するなど、着実に取り組んでいる。

業務運営については、事務職員の専門性の向上を図るため、専門・階層・テーマ別に中期計画期間 6年間の研修計画を策定し、計画的に研修を実施するとともに、当該研修の必要性や効果等について 検証した上で再度研修を実施し、研修成果を業務運営に反映させている。

財務内容については、毎月、予算の執行状況等を経営企画室会議に報告し、財務の安全性や補正予算の編成の必要性等について協議するとともに、教育経費比率等の経年比較や他大学との比較を行い、教育・研究設備への投資等、次期事業年度の計画の作成・実施に役立てるなど、財務情報の分析結果を効果的に大学運営の改善に活用している。

情報提供については、中期目標期間の業務を自己点検し、目標を着実に実行できるように、各企画室において取組内容等の再検討を行い、整理表を用いて中期計画の取組状況の進捗管理を行うとともに、第2期中期目標期間の整理表においては、各中期計画の達成状況を事後的に検証しやすいように改善している。

その他業務運営については、省エネルギーの推進等の対策として省エネルギー推進専門部会を設置し、省エネ対策年次計画に基づき、ESCO事業を導入し、省エネルギー機器への変更を実施するなど、全学的な省エネルギーの推進に努めている。

♦-----

平成16年度 評価結果 (全体評価より抜粋)

平成 16 年度においては、法人化後の学長の補佐体制の強化のため、3 名の副学長を置いたことや、 学長の下に理事又は副学長を室長とする 7 つの企画室を設置し、担当テーマに関する企画立案を行う など、組織の機動性を高める努力がなされている。また、予算編成・執行単位を企画室毎とする新た な予算編成方法を導入し、柔軟な予算配分と効率的予算執行を図っているほか、光熱水費の節約等に よる管理経費の削減や外部資金の獲得等、財務内容の改善に取り組んでいる。

今後は、予算や人員等の資源配分に当たって、大学としての方向性を反映させた戦略的な方策を工夫するとともに、事務の合理化・効率化について早急な対応が必要である。また、自己点検・評価を全学的に実施してその結果を大学運営に活用していくことが望まれる。

教育研究に関しては、教育成果の検証のために学生の成績等の追跡調査を行っていることや、PBL 方式を活用した医学倫理教育に力を入れている点等に、積極的な取り組みが認められ、今後の展開が 期待される。

平成17年度 評価結果 (全体評価より抜粋)

浜松医科大学は、役員会の下に教育企画室、情報・広報企画室、総務企画室、研究推進企画室、経 営企画室、病院運営企画室及び調査・労務企画室を置き、機動的運営を試みるとともに、各企画室の 連絡・調整をする総合企画会議で大学運営全体の調整が行われるなど、大学運営の充実、円滑化を図 る体制づくりがされ、安定した状況で運営がされている。

全職員にヒアリングをして、事務組織のあり方の検討を行い、その結果に基づいて効率的な事務改組の計画を策定し、平成18年度から実施することとしている点、ヒアリング結果を活かして業務の課題を抽出して、業務改善を計画的に実施している点が評価できる。

これらの改善に引き続き取り組むこととしているので、全職員との情報の共有化を一層高めるとと もに、事務組織能力を向上させ、新しい大学に適合した事務組織体制づくりが行われることを期待し たい。

また、外部資金の受け入れにも積極的で、平成 17 年度は厚生労働科学研究費補助金及び科学研究 費補助金の獲得額の伸びが著しかった。

なお、今後の大学運営に避けられない課題として、教職員の個人評価と処遇や人件費(人員)管理、 財務の健全性、大学評価の組織的取組などがあるので、これらの問題に対応するために、全学的なマネジメントを一層強化することが期待される。

平成18年度 評価結果(全体評価より抜粋)

毎月、総合企画会議において、各企画室から企画立案や業績の進捗状況が報告され、意見交換を行い、今後の実施方針案を検討し、学長の承認を受けたものを、教育研究評議会、経営協議会及び役員会に付議し、意思決定する体制が定着してきている。

また、教員、教務員及び病院職員を対象に教育・研究・診療等の業績に基づく総合的な個人評価を実施し、その結果を勤勉手当に反映させており、評価できる。

この他、業務運営については、平成17年度に策定した「事務局業務分析・改善報告」に基づいて、 業務の廃止、事務局組織の再編、教室系事務職員の事務局への配置換え、附属病院における外部委託 等を実施している。今後、これらの改革の検証を着実に行いながら、事務体制の一層の改善が期待される。

財務内容については、毎月の予算執行状況、収入確保状況、附属病院の稼働状況及び人件費の執行 状況等について経営企画室会議に報告し、財務の安全性の確保及び補正予算の編成の必要性等につい て協議しており、引き続き、経営状況を的確に把握しつつ全学的なマネジメントに取り組むことが期 待される。

教育研究の推進については、光医学を中心とした教育・研究活動を推進するとの大学の基本的な目標に基づき、分子イメージング先端研究センターを設置し、学長裁量経費で大型装置を整備しているほか、学部学生を研究補助者として参画させ、研究志向を育成することを目的とした「ジュニアリサーチアシスタント制度」を導入するなど、研究活動を積極的に支援している。

平成19年度 評価結果 (全体評価より抜粋)

毎月、予算の執行状況及び収入実績が経営企画室会議に報告され、対前年同月の比較分析を行っているほか、財務指標の経年比較や他大学との比較検討を行った結果を踏まえ、教育・研究設備への投資等、次期事業年度の計画の作成・実施に役立てるなど、財務情報の分析結果を効果的に大学運営の改善に活用している。

この他、業務運営については、全学的に教員の任期制を推進しており、任期付教員の割合が94%と高い水準となっている。

財務内容については、知的財産コーディネーターが共同研究や外部資金の応募課題を模索するなどの取組を行った結果、平成 18 年度から平成 19 年度にかけて、受託研究が大幅に増加するなど、継続的に外部資金の獲得増が図られている。

教育研究の質の向上については、「分子イメージングセンター」及び「がん教育研究センター」を 設置し、大学院博士課程光先端医学専攻に「分子イメージングセミナー」を新設するとともに、専攻 横断的に「がんプロフェッショナル養成コース」を設置することとするなど、高度先進医療のニーズ に応じた教育研究に取り組んでいる。

平成20年度 評価結果 (全体評価より抜粋)

業務運営については、毎月、総合企画会議において理事及び副学長が各企画室の企画立案状況を報告し、それに対する意見交換、今後の実施方針等を検討している。

財務内容については、外部資金獲得のため、「産学官連携の手引き書」の作成・配布や「シーズ集」のウェブサイト掲載等に取り組み、また、年度途中に収入状況や事業の進捗状況等を評価し、補正予算を編成・再配分するなど、戦略的な予算執行を行っている。

自己点検・評価及び情報提供については、病院内に副病院長をリーダーとして TQM (total quality management) チームを多職域で構成して設置し、病院機能評価の審査項目に準じて点検・評価を行い、改善を図っている。

教育研究の質の向上については、教員と学生とが密接なふれあいの中で人間性を養い、学問の論理性や面白さを会得する機会を与えるため、医学科1年次生への少人数ゼミナール形式の授業を実施し

ている。

平成21年度 評価結果 (全体評価より抜粋)

業務運営については、博士の学位を有し、いずれの研究機関にも属さず、将来発展が期待される優れた研究テーマを持った研究者に、研究の場を与えるため、「浜松医科大学特別奨励研究員制度」を構築している。

財務内容については、物流委員会で医療材料の見直しを行うとともに、各部署の医療材料供給システムをコ・ストラック方式から補充方式に切り替え、最低限の定数管理としたことにより、医療材料費を削減している。

その他業務運営については、「ボランティアの受入れ指針及び活動要項」に基づき、地域の公共施設等へのチラシの配布、ポスターの掲示、広報誌への掲載等を継続して実施し、ボランティア募集に関する広報活動の充実に努めるとともに、病院ボランティアと病院長、看護部長等との懇談会を定期的に開催して、ボランティア活動の内容を検証し、病院の業務運営に反映している。

教育研究等の質の向上については、地域産学官共同研究拠点整備事業により、静岡県、浜松市、浜松商工会議所、浜松地域テクノポリス推進機構、静岡大学及び光産業創成大学院大学と連携し、浜松地域での健康医療産業の創出を目指す「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業」として、光・電子技術を使った医療機器を共同開発することとしている。

○今後の改善・充実

教育研究力の強化

必要な教育研究組織の積極的な見直し 授業内容、方法の改善 大学間の連携 GPA等を用いた能力の評価 光とイメージングによる医学への展開 シーズとニーズの発掘 海外との共同研究の推進 若手研究者への支援

ガバナンスの強化

経営能力の向上 組織の柔軟かつ機動的な編成 適正な人事管理 事務処理の簡素化・迅速化 評価結果を大学運営の改善に活用 積極的な情報発信 計画的な施設整備・管理 法令遵守 情報セキュリティ対策

財務基盤の強化

学内の資源配分の計画的な執行 内部統制の仕組みの整備 自己収入増加のための取組 経費の抑制 人件費改革 資産の効率的・効果的な運用

○法人の目指す方向性

- 1. 医師、看護師などの医療人の不足・偏在による医療崩壊が危惧される現況において、静岡県唯一の 医系大学である本学の使命は、地域に医療人を供給するとともに、地域の医療レベルの向上に資す ることである。このような視点に立って優れた医療人を養成する。
- 2. 医学部附属病院は、地域医療の中核としての役割を果たすとともに、地域医療の最後の砦となる高度な医療を提供する。
- 3. 本学がこれまで推進してきたメディカルフォトニクス (光技術とイメージングを用いた医学研究) を更に発展させ、世界の研究拠点とする。
- 4. 本学の在る静岡県西部地域は、産業・工業の集積地域であり、この地域の特性を活かして産学連携による医療技術の開発と医療に関する産業の振興に貢献する。

第2期の基本的な目標

- 1. 地域社会に貢献できる医師・看護専門職の養成 世界に発信できる研究者の育成
- 2. 光医学を中心とした独創的研究と新しい医療技術の開発
- 3. 地域医療の中核病院として高度な医療の提供 臨床教育の充実を図り、研究マインドを有する専門医の育成
- 4. 研究成果の社会還元

○参考データ

教育	
1 - 1	学生数
1 - 2	長期履修制度等による社会人受入数
1 - 3	学業の成果(国家試験合格状況)
1 - 4	進路・就職状況(学部)
1 - 5	進路・就職状況(大学院)
1 - 6	大学院博士課程修了者の学位申請論文の平均 IF
1 - 7	留学生受入状況
1 - 8	学術協定校年度別海外派遣状況
1 - 9	入試状況
1 - 10	図書館利用者入館数(学外者)
研究	
2 - 1	重点学術研究プロジェクト採択一覧
2 - 2	学内研究発表会開催状況
2 - 3	受託研究、共同研究
2 - 4	奨学寄附金
2 - 5	特許、ライセンス等収入
2 - 6	科学研究費補助金
2 - 7	原著論文数
病院	
3 - 1	法人化後の病院診療統計等
その他	
4 - 1	運営費交付金
4 - 2	第1期中期目標期間の評価結果
4 - 3	教員数・職員数の変化
4 - 4	人件費改革への取組
4 - 5	財務分析指標の推移

1-1 学生数 (各年度 5 月 1 日現在)

医学部

	H16年度				H17年度			H18年度			H19年度					
	収容定員	学生数	男	女	収容定員	学生数	男	女	収容定員	学生数	男	女	収容定員	学生数	男	女
医学科	595	610	401	209	595	616	413	203	595	599	408	191	595	612	423	189
看護学科	260	265	13	252	260	265	14	251	260	261	15	246	260	260	20	240

医学系研究科

E 1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		H164	年度		H17年度				H184	年度			H19年度			
	収容定員		男	女	収容定員		男	女	収容定員		男	女	収容定員	学生数		女
(修士課程)																
看護学	32	28	3	25	32	38	6	32	32	40	3	37	32	49	2	47
(博士課程)																
形態系	-	20	15	5	_	14	11	3	_	8	6	2	_	_	_	ı
生理系	-	34	26	8	-	23	17	6	_	10	7	3	-	1	1	ı
生化学系	-	28	19	9	-	18	12	6	_	8	5	3	_	_	_	-
生態系	-	10	5	5	-	7	3	4	_	6	3	3	_	1	1	-
光先端医学	44	7	5	2	44	19	14	5	44	26	20	6	44	35	27	8
高次機能医学	20	8	7	1	20	16	14	2	20	26	23	3	20	31	26	5
病態医学	32	17	14	3	32	33	24	9	32	50	37	13	32	64	47	17
予防·防御医学	24	0	0	0	24	2	1	1	24	5	4	1	24	6	4	2

[※]博士課程のうち、形態系、生理系、生化学系及び形態系は、平成16年4月から学生募集を停止し、在学生の修了等をもって廃止。

医学部

		H20:	年度		H21年度				
	収容定員	学生数	男	女	収容定員	学生数	男	女	
医学科	595	579	402	177	605	612	435	177	
看護学科	260	239	16	223	260	263	14	249	

医学系研究科

医字系研究科												
		H20:	年度			H21:	年度					
	収容定員	学生数	男	女	収容定員	学生数	男	女				
(修士課程)												
看護学	32	46	1	45	32	45	3	42				
(博士課程)												
形態系	-	ı	ı	-	-	ı	ı	-				
生理系	-	-	-	-	-	-	-	-				
生化学系	-	ı	ı	-	-	ı	ı	-				
生態系	-	-	-	-	-	-	-	-				
光先端医学	44	33	28	5	44	35	27	8				
高次機能医学	20	31	24	7	20	27	21	6				
病態医学	32	64	48	16	32	62	47	15				
予防·防御医学	24	11	5	6	24	14	6	8				

助産学専攻科

		H20:	年度		H21年度				
	収容定員	学生数	男	女	収容定員	学生数	男	女	
助産学専攻科	10	10	0	10	10	10	0	10	

1-2 長期履修制度等による社会人受入数

(各年度5月1日現在)

		H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
長期履修制度	修士課程	13	13	11	15	14
	博士課程		3	12	18	21
秋入学制度	博士課程	1	1	2	0	11
継続研究生制度	博士課程			11	12	5

1-3 学業の成果(国家試験合格状況)

医師国家試験合格状況

	回数	卒業者数	受験者数	合格者数	不合格者 数	合格率 (%)	全国順位	全国平均 合格率
H16	第98回	93	103	96	7	93.2	22位	88.4
H17	第99回	95	102	94	8	92.2	29位	89.1
H18	第100回	116	125	112	13	89.6	50位	90
H19	第101回	86	99	92	7	92.9	20位	87.6
H20	第102回	112	118	113	5	95.8	11位	90.6
H21	第103回	97	101	96	5	95.0	21位	91

保健師国家試験合格状況【()は3年次編入、受験者数には既卒も含む】

	回数	卒業者数			不合格者数	合格率 (%)	全国平均合格率(%)
H16	第90回	66(10)	68(10)	67(10)	1	98.5	92.3
H17	第91回	70(10)	71(10)	67(10)	4	94.4	81.5
H18	第92回	72(12)	74(11)	69(11)	5	93.2	78.7
H19	第93回	71(11)	74(11)	74(11)	0	100	97.9
H20	第94回	70(10)	70(10)	69(10)	1	98.6	91.1
H21	第95回	69(10)	69(10)	69(10)	0	100	97.7

看護師国家試験合格状況【()は3年次編入、受験者数には既卒も含む】

		1700 <u> </u> (/ 18		、 又 例 方 日 多	XICIAM+		全国平均
	回数	卒業者数	受験者数	合格者数	不合格者 数	合格率 (%)	合格率 (%)
H16	第93回	66(10)	57	55	2	96.5	91.2
H17	第94回	70(10)	62	60	2	96.8	91.4
H18	第95回	72(12)	62	60	2	96.8	88.3
H19	第96回	71(11)	60	59	1	98.3	90.6
H20	第97回	70(10)	61	60	1	98.4	90.3
H21	第98回	69(10)	59	57	2	96.6	89.9

助産師国家試験合格状況【()は3年次編入】

	回数	卒業者数	受験者数	合格者数	不合格者 数	合格率 (%)	全国平均 合格率 (%)
H16	第87回	66(10)	6	6	0	100	96.2
H17	第88回	70(10)	6	6	0	100	99.7
H18	第89回	72(12)	6	6	0	100	98.1
H19	第90回	71(11)	6	6	0	100	94.3
H20	第91回	70(10)	4	4	0	100	98.1
H21	第92回	69(10)	15	15	0	100	99.9

1-4 進路・就職状況(学部)

医学科卒	業生の就職	状況									(人)
						進路第	引内訳				
			大学院				医員(研修医)			
卒業年月	卒業者数	本学	他大学	小計	本学附属病 院	他の国立大 学附属病院	公·私立大 学附属病院	厚生大臣 指定臨床研 修病院	小計	その他	合計
平成17年3月	95	0	0	0	24	20	10	37	91	4	95
平成1/年3月	95	0	0	"	25.3%	21.1%	10.5%	38.9%	95.8%	4.2%	100.0%
亚世10年2日	116	0	0	_	41	7	13	46	107	9	116
十成10年3月	成18年3月 116	U	0	0	35.3%	6.0%	11.2%	39.7%	92.2%	7.8%	100.0%
平成19年3月	0.0	86 0		0	36	7	12	27	82	4	86
平成19年3月	86	0	0	0	41.9%	8.1%	14.0%	31.4%	95.3%	4.7%	100.0%
平成20年3月	110	0	0	0	40	14	11	44	109	3	112
平成20年3月	112	U	0	0	35.7%	12.5%	9.8%	39.3%	97.3%	2.7%	100.0%
平成21年3月	0.7	0	0	_	26	11	14	44	95	2	97
十八八二年3月	97	97 0	0	0	26.8%	11.3%	14.4%	45.4%	97.9%	2.1%	100.0%
平井00年0日	100		0	_	29	12	12	41	94	8	102
平成22年3月	102	0	0	0	28.4%	11.8%	11.8%	40.2%	92.2%	7.8%	100.0%

看護学科2	卒業生の就	職状況										(人)
							進路別内訳					
卒業年月	卒業者数		進学				就	職				
华条年月	华来 有奴	本学	他大学	小計	本学附属病 院	他の国立大 学附属病院	公·私立大 学附属病院	その他病院	中仮所・健 診センター・ 企業	小計	未就職	合計
平成17年3月	70	0人	2	2	19	4	6	32	2	63	5	70
+12077	,,,	0,7	2.9%	2.9%	27.1%	5.7%	8.6%	45.7%	2.9%	90.0%	7.1%	100.0%
平成18年3月	72	2	5	7	15	5	10	29	5	64	1	72
十成16年3月	/2	2.8%	6.9%	9.7%	20.8%	6.9%	13.9%	40.3%	6.9%	88.9%	1.4%	100.0%
平成19年3月	71	0	3	3	10	2	2	37	12	63	5	71
十成19年3月	/ /	U	4.2%	4.2%	14.1%	2.8%	2.8%	52.1%	16.9%	88.7%	7.0%	100.0%
平成20年3月	70	0	2	2	22	5	8	21	7	63	5	70
十成20年3万	,,,	Ů	2.9%	2.9%	31.4%	7.1%	11.4%	30.0%	10.0%	90.0%	7.1%	100.0%
平成21年3月	69	1	1	2	18	2	11	25	5	61	6	69
十成2143月	09	1.4%	1.4%	2.9%	26.1%	2.9%	15.9%	36.2%	7.2%	88.4%	8.7%	100.0%
平成21年3月	69	1	1	2	18	2	11	25	5	61	6	69
十成21年3月	09	1.4%	1.4%	2.9%	26.1%	2.9%	15.9%	36.2%	7.2%	88.4%	8.7%	100.0%
平成22年3月	69	1	1	2	26	5	2	29	5	67	0	69
十成22年3月	09	1.4%	1.4%	2.9%	37.7%	7.2%	2.9%	42.0%	7.2%	97.1%	0.0%	100.0%

助産学専項	攻科卒業生	の就職状法	兄									(人)	
							進路別内訳						
六类在日	卒業年月 卒業者数 進学 就職												
华来年月	华条有奴	本学	他大学	小計	本学附属病 院	他の国立大 学附属病院	公·私立大 学附属病院	その他病院	市役所・健 診センター・ 企業	小計	未就職	合計	
平成21年3月	9	0	0	0	0	0	0	9	0	9	0	9	
TRZ1+373 9 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 100.0% 0.0% 100.0% 100.0%									100.0%	0.0%	100.0%		
平成22年3月	10	0	0	0	0	0	2	7	1	10	0	10	
十成22年3月	10	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	70.0%	10.0%	100.0%	0.0%	100.0%	

1-5 進路・就職状況(大学院)

大学院修士課程修了生就職先等

		7				
	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
	(14名)	(14名)	(7名)	(17名)	(15名)	(9名)
大学院博士課程進学	1	0	0	0	0	0
臨床(病院等)	4	4	2	5	4	4
教育機関	2	6	1	6	4	2
行政機関	1	2	2	2	3	1
その他	6	2	2	4	4	1

大学院博士課程修了生就職先等

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
	(19名)	(21名)	(19名)	(18名)	(27名)	(28名)
本学(医員等)	10	9	7	8	12	13
他教育研究機関(外国含む)	3	1	2	3	9	3
他病院等(臨床)	0	7	8	5	4	11
その他	3	4	0	2	2	1
未定	3	0	2	0	0	0

1-6 大学院博士課程修了者の学位申請論文の平均 IF

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
申請学位論文数	21	26	23	21	35	28
IFを調査できた論文数	19	22	21	13	25	24
IF値合計	55.915	64.852	64.424	36.514	96.022	84.307
調査できたIF値平均値	2.943	2.948	3.068	2.809	3.841	3.513

1-7 留学生受入状況

					年度					H17	年度					H18	年度		
地域	国名	学	部	修士	課程	博士	課程	学	部	修士	課程	博士	課程	学	部	修士	課程	博士	課程
地域	国有	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費
	中国		1		4	5	14		1			4	19		1		1	4	19
	台湾		1						2										
アジア	インド						1						1						1
, , ,	ヴェトナム		2												2				
	ミャンマー																	1	
	バングラデシュ																		
アフリカ	エジプト						1												1
7 2 7/3	ケニア											1						1	
	計	0	4	0	4	5	16	0	3	0	0	5	20	0	3	0	1	6	21

				H19	年度					H20	年度					H21	年度		
地域	国名	学	部	修士	課程	博士	課程	学	部	修士	課程	博士	課程	学	部	修士	課程	博士	課程
地域		国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費
	中国		1		1	4	18		1			3	11		1			1	9
	台湾																		
アジア	インド						1												
121	ヴェトナム		2						2						1				
	ミャンマー					1						1						1	
	バングラデシュ											1	1					1	1
アフリカ	エジプト						2						2						2
7 2973	ケニア					1						1							
	計	0	3	0	1	6	21	0	3	0	0	6	14	0	2	0	0	3	12

1-8 学術協定校年度別海外派遣状況

平成16年度(5名)

	12 TO T	X (0-11)					
	学年	期間	留学先	国別	内容	診療科	週数 備考
	1	H16.4.5~H16.5.28	フライブルク大学	ドイツ		心臓血管外科、麻酔科	8
	2	H16.4.5~H16.5.28	ファイブルグ人子]	呼吸器外科、心臓血管外科	8協定校
	3 6年次	H16.3.29~H16.4.9			臨床実習	東洋医学	単位認定
	4	H16.3.29~H16.4.9	河南中医学院	中国		東洋医学	2 单位配定
Г	5	H16.3.29~H16.4.9			1	東洋医学	2

平成17年度(4名)

 <u>ルス・/ 干ル</u>	又(十日/					
学年	期間	留学先	国別	内容	診療科	週数 備考
1	H17.4.4~H17.5.27	フライブルク大学医学部	ドイツ		小児科、産婦人科	8
2 6年次	H17.4.4~H17.5.13	慶北大学校医科大学	韓国	臨床実習	耳鼻咽喉科、脳神経外科	6 協定校
3 6 4 次	H17.4.11~H17.5.5	BSM医科大学	バングラデシュ	師 从 天 白	内科	4 単位認定
4	H17.4.11~H17.5.19	ダッカ大学医学部	1,777,74		小児科,一般外科	6

平成18年度(7名)

	学年	期間	留学先	国別	内容	診療科	週数	備考
1		H18.3.27~H18.4.13				一般外科	3	
2		H18.3.27~H18.5.4	BSM医科大学	バングラデシュ		一般外科、小児外科、血管外科	6	
3		H18.3.27~H18.5.4	ダッカ大学医学部	,,,,,,,,,		一般外科、小児外科、血管外科、産婦人科	6	協定校
4	6年次	H18.4.17~H18.4.28			臨床実習	小児外科、産婦人科		単位認定
5		H18.4.3~H18.4.21	ビャウィストク医科大学	ポーランド		腎臓科	3	中世記足
6		H18.4.3~H18.4.28	慶北大学校医科大学	韓国		麻酔科、小児科	4	
7		H18.3.27~H18.4.7	中国医科大学	中国		中医学	2	

平成19年度(10名)

L /2		支(10位) Lunga						
	学年	期間	留学先	国別	内容	診療科	<u> 遺数</u>	備考
1		H19.4.2~H19.4.13	中国医科大学			内分泌内科	2	
2		H19.4.16~H19.4.27	中国医科人子			中医学、耳鼻咽喉科	2	j l
3		H19.4.2~H19.5.25	河南中医学院	中国		中医学	8	j l
4		H19.5.14~H19.5.25	广西医科大学]		外科、循環器内科	2	İ
5	6年次	H19.4.2~H19.4.27	上海交通大学医学院		臨床実習	血液内科、循環器内科		協定校
6	1040	H19.4.16~H19.4.27	工海文區八字医子院		四小大日	血液内科	2	単位認定
7		H19.4.9~H19.5.4	慶北大学校医科大学	韓国		整形外科、形成外科	4	İ
8		H19.4.16~H19.6.8				消化器外科、救急外科	8	
9]	H19.4.16~H19.6.8	フライブルク大学医学部	ドイツ		産婦人科、脳神経外科	8	İ
10		H19.4.16~H19.6.8				呼吸器内科、循環器内科	8	

平成20年度(11名)

1 /2		<u> </u>						
	学年	期間	留学先	国別	内容	診療科	週数	備考
1		H20.5.11~H.20.6.8	中国医科大学			中医学	4	
2		H20.5.11~H.20.6.8	中国医科人子	中国		内分泌内科、消化器外科	4	
3		H20.4.7~H20.4.18	广西医科大学	一 🖷		心臓外科(先天性心疾患)	2	
4		H20.6.9~H20.6.20	7 西医特人士			一般外科、循環器科	2	
5		H20.3.31~H20.4.25				救急、消化器外科	4	協定校
6	6年次	H20.4.7~H20.4.18	ビャウィストク医科大学	ポーランド	臨床実習	腎臓内科	2	単位認定
7		H20.4.7~H20.4.18				腎臓内科	2	半 位 心 化
8		H20.4.7~H20.5.2	慶北大学校医科大学	韓国		脳神経外科、小児科	4	
9		H20.4.7~H20.5.30				病院病理、婦人科	8	
10		H20.4.7~H20.6.13	フライブルク大学医学部	ドイツ		眼科、整形外科、内科	10	
11		H20.4.7~H20.6.13				麻酔科、婦人科、血液内科	10	

平成21年度(8名)

	学年	期間	留学先	国別	内容	診療科	週数	備考
1		H21.4.6~H21.4.17	上海交通大学医学院	中国		整形外科	2	
2		H21.4.6~H21.4.17	工海又进入于区于阮	十四		小児科、産婦人科	2	
3		H21.4.6~H21.4.17				消化器内科、呼吸器内科	2	
4	6年次	H21.3.23~H21.4.17	ビャウィストク医科大学	ポーランド	施庄宝型	小児科、産婦人科	4	協定校
5	0十次	H21.4.20~H21.5.1			四小人口	消化器内科、内分泌代謝内科	2	単位認定
6		H21.3.30~H21.4.24				血液内科	4	
7		H21.5.18~H21.6.12	フライブルグ大学	ドイツ		産婦人科	4	
8		H21.5.18~H21.6.12				血液内科	4	

1-9 入試状況 (各年度5月1日現在)

医学部

<u>рен 1 рар</u>		H	116年度	Ę .	H	117年度	ŧ	F	118年度	Ę	F	119年月	ŧ	F	120年月	₹	H	121年月	Ę
		募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数
	男		435	63		476	67		495	67		490	72		460	70		409	73
	77		(68)	(2)		(74)	(5)		(57)	(2)		(62)	(4)		(69)	(5)		(88)	(2)
医学科	女	100	262	34	100	278	29	100	259	28	100	221	23		219	25	105	196	32
E-T14	_^_	(5)	(38)	(3)	(5)	(30)	(0)	(5)	(29)	(2)	(5)	(25)	(1)	(5)	(33)	(0)	(5)	(48)	(3)
	合計		697	97		754	96		754	95		711	95		679	95		605	105
			(106)	(5)		(104)	(5)		(86)	(4)		(87)	(5)		(102)	(5)		(136)	(5)
	男		11	5		23	7		9	3		16	4		8	2		13	4
	77		(0)	(0)		(0)	(0)		(0)	(0)		(1)	(1)		(2)	(1)		(1)	(0)
看護学科	女	60	177	55	60	232	53	60	187	57	60	179	57	60	105	58		161	58
自成丁竹	_^	(10)	(42)	(12)	(10)	(40)	(11)	(10)	(51)	(10)	(10)	(32)	(9)	(10)	(32)	(9)	(10)	(36)	(10)
	合計		188	60		255	60		196	60		195	61		113	60		174	62
			(42)	(12)	4 1- EI W	(40)	(11)		(51)	(10)		(33)	(10)		(34)	(10)		(37)	(10)

※医学科の()は、第2年次後期編入学を外数で示す。 ※看護学科の()は、第3年次後期編入学を外数で示す。

大学院博士理程

大字院博:	工課和																		
		H	H16年度	/₩		117年度	Ę		118年月	Ŧ		119年度	₹		120年月	ŧ	H	121年月	/ -#
		募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数
	男		5	5		9	9		5	5		7	7		6	6		9	7
光先端医学	女	11	2	2	11	3	3	11	1	1	11	2	2	11	0	0	11	7	6
	合計		7	7		12	12		6	6		9	9		6	6		16	13
	男		8	7		7	7		9	9		6	6		2	2		0	3
高次機能医学	女	5	1	1	5	1	1	5	1	1	5	2	2	5	3	3	5	1	1
	合計		9	8		8	8		10	10		8	8		5	5		1	4
	男		14	14		10	10		14	13		10	10		12	12		10	9
病態医学	女	8	3	3	8	6	6	8	4	4	8	4	4	8	3	3	8	2	2
	合計		17	17		16	16		18	17		14	14		15	15		12	11
	男		1	0		1	1		4	3		0	0		1	1		2	2
予防・防御医学	女	6	0	0	6	1	1	6	0	0	6	0	0	6	4	4	6	3	3
	合計		1	0		2	2		4	3		0	0		5	5		5	5

大学院修士課程

<u>八十 元 多</u>	<u> </u>	<u> </u>																	
	H16年度 H17年度								H18年月	₹	ŀ	119年度	ŧ		120年月	ŧ	H21年度		£
		募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数
	男		4	3		3	3		0	0		1	0		1	1		2	2
看護学	女	16	12	10	16	20	20	16	22	18	16	17	16	16	15	14	16	18	15
	合訊		16	13		23	23		22	18		18	16		16	15		20	17

1-10 図書館利用者入館数(学外者)

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
大学研究者	47	54	47	57	57	51
一般企業	135	108	104	36	119	71
学生	137	114	126	283	314	472
医療関係者	338	260	155	346	574	452
一般市民 等	139	195	173	305	673	317
合計	796	731	605	1,027	1,737	1,363

2-1 重点学術研究プロジェクト採択一覧

年度	研究担当部局	学術研究プロジェクト	配分額 (千円)	備考
	光量子医学研究センター	ポストゲノムシンプトミクス-症状から遺伝子への架け橋	6,000	
	薬理学	移植後動脈硬化及びそれに伴う臓器機能不全発症機構のリアルタイムイメージングによる解析	5, 000	
16	生化学第二	マウスを用いたヒト肝細胞増殖法の開発とその応用	4,000	
	精神神経医学	脳内セロトニン系の異常からみたアスペルガー障害の病態発生に関する研究	4, 000	
	脳神経外科学	「自殺遺伝子」導入骨髄幹細胞を用いた悪性グリオーマの治療	1,000	
17	光量子医学研究センター	生体機能イメージング法による癌・炎症性疾患を中心とした創薬 ターゲットの探索研究	10, 000	
17	法医学	PETとMALDI質量分析を併用した分子イメージングによる各種疾患病態解析に関する研究	10, 000	
	生化学第二	ヒト化マウスの作製とその応用	4, 000	
	内科学第一	北遠地域における神経変性症の分子疫学的研究	2, 500	
1.0	内科学第一	尿細管前駆様細胞を用いた急性腎不全後の再生療法の検討	4, 000	
18	解剖学講座	新規γセクレターゼ修飾蛋白質によるアルツハイマー病治療法の開 発	2, 500	
	眼科学	拡張候補遺伝子探索法による緑内障新規原因遺伝子の探索 一神経 損傷保護機能の破綻の観点から一	3, 000	
	第二外科	Indocyanine Green(ICG)近赤外線蛍光を利用したリンパ流の研究	4, 000	
19	(公募を行わず、機器購	HPマススペクトラム改造経費(質量分析計補助装置)1台	10, 000	
19	入等経費に充当)	生細胞タイムラプスイメージングシステム BioStation1M(ニコン製) 2台	10, 000	
	光量子医学研究センター	タンパク間相互作用を手がかりとした新規緑内障原因遺伝子の探索 と発症機構の解析	2,000	
	形成外科	リアルタム蛍光血管撮影を用いた創傷治癒の予測的評価 (predictive evaluation) -虚血胺・難治性潰瘍の集約的治療に向 けて-	400	
	臨床薬理学	光技術を用いた血管内皮機能測定法の確立	400	
	臨床研究管理センター	ゲノム解析による個別化治療の推進	400	
	臨床検査医学	癌の体液診断法・個別化医療検査法の確立 - 臨床材料の収集・保管 システムから新規測定法の確立とその臨床応用まで-	400	
20	分子イメージング先端研 究センター ヒトイメージング研究部	分子イメージング手法を用いたヒト障害脳における病態解明研究	10 000	2件を1件 にまとめ
	脳神経外科学	サルバーキンソン病モデルでの視床下核刺激療法のPET画像による効 果発現機序の研究	10, 000	て採択

	生化学第二	C型肝炎ウイルス感染性マウスの作成	2, 000	
	生理学第二	【光技術の医学応用】全反射及び共焦点顕鏡融合高速連続撮像装置の作製とその技術応用:細胞内タンパク輸送及び分泌顆粒開口放出機構の解明を目指して	400	
	感染症学	B型肝炎ウイルス感染受容体の分離・同定と感染系構築による病態発症機構の解明	2, 000	
	第二外科	大動脈瘤の分子レベルでの病態解析と新しい予防、治療法の開発	3, 000	
	生化学第二	ヒト肝細胞を肝細胞癌にする遺伝子の探索	2, 000	
	感染症学	潜伏期の結核菌を標的としたワクチンの開発と免疫学的診断法の確立	2, 000	
	生化学第一	細胞の運命決定機構の解明と癌幹細胞制御	3, 000	
21	倫理学	NBIC収斂技術をめぐる倫理・法・社会的影響とコンセンサス形成の研究 (Study on ELSI of NBIC converging technology and Consensus)	800	
21	生理学第二	血管内皮を介した臓器応答の調節機構:血管内皮機能分子の可視化 による血管機能並びに臓器機能調節機構の解析	2, 000	
	医療情報部	光学的コンピュータトモグラフ装置(光学CTスキャン顕微鏡)の 開発	1,000	
	臨床研究管理センター	迅速SNP解析装置による胃液検体を用いた遺伝子多型に基づくテーラーメイドのH. pylori除菌療法の発展	500	
	生理学第二	糖尿病発症機序を探る:光技術を用いた遊離脂肪酸の新規受容体の 探索	500	
	光量子医学研究センター	加齢黄斑変性責任遺伝子の追究:動物モデルでの候補遺伝子のクローニングとヒト症例での多型タイプ - 発症相関解析	3, 000	
	生化学第一	テロメラーゼ活性調節による誘導多能性幹細胞(iPS 細胞)作成の 効率化と分化誘導後の癌化抑制	3, 000	
22	動物実験施設	講座等横断的プロジェクト コモンマーモセットにおけるMHC(主要組織適合抗原遺伝子複合体) 遺伝子を指標とした系統育成、繁殖および学内供給	1,000	
	生理学第一	GABAからみた脳神経発生メカニズムおよび疾患病態の解析:イメージ ングとアレイ解析の融合による新展開	3, 000	

2-2 学内研究発表会開催状況

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
開催状況	6	8	5	5	3	3
発表者延べ人数	12	15	8	8	40	34
参加者延べ人数	209	222	160	205	170	172

[※]H20年度から開催回数を年3回(9月、12月、2月)とした。

2-3 受託研究、共同研究

受託研究												単位:千円
	H16	年度	H17	年度	H18	年度	H19	年度	H20	年度	H21	年度
区分	件数	金額										
一般	26	93,095	22	99,344	19	126,068	26	218,494	33	463,049	46	476,946
直接経費		87,798		93,930		117,932		198,481		399,886		392,036
間接経費		5,297		5,414		8,136		20,013		63,163		84,910
治験	128	433,196	148	298,954	170	171,136	177	182,283	190	295,675	217	182,448
直接経費		379,605		235,277		131,408		138,133		232,854		144,884
間接経費		53,591		63,677		39,728		44,150		62,821		37,564
計	154	526,291	170	398,298	189	297.204	203	400.777	223	758,724	263	659.394

共同研究												単位:千円
	H16年度		H17年度		H18年度		H19年度		H20年度		H21年度	
区分	件数	金額										
受入額	31	38,168	30	38,778	33	48,755	38	45,750	31	48,225	32	97,830
直接経費		38,168		38,428		48,195		42,699		44,177		88,789
間接経費		0		350		560		3,051		4,048		9,041

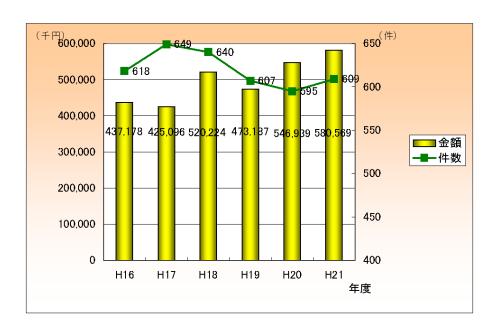




2-4 奨学寄附金

単位:千円

H16年度		H17年度		H18年度		H19年度		H20年度		H21年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
618	437,178	649	425,096	640	520,224	607	473,187	595	546,939	609	580,569



2-5 特許

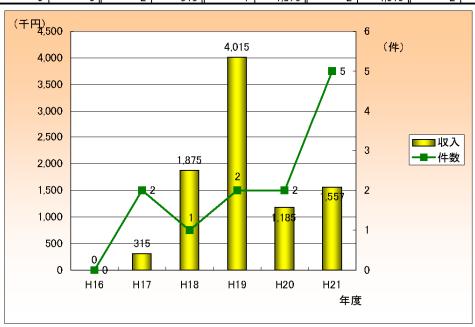
(1)特許出願件数 (件) U10年度 U10年度 U20年度 U20年度 U21年度 U20年度 H16年度		H17年度		H18年度		H19年度		H20	年度	H21年度	
国内	国際、外国	国内	国際、外国	国内	国際、外国	国内	国際、外国	国内	国際、外国	国内	国際、外国
24	3	24	11	22	11	15	11	12	15	16	9

 (2)ライセンス等収入
 (件数は件、実施料は千円)

 H16年度
 H17年度
 H18年度
 H19年度
 H20年度
 H21年度

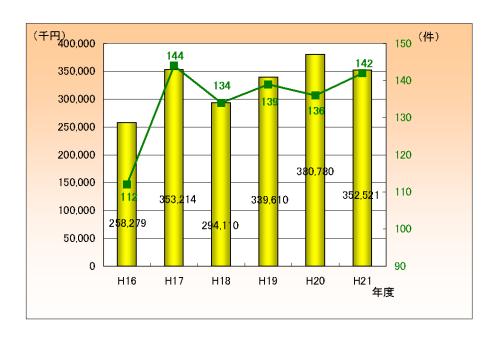
 件数
 実施料
 件数
 実施料
 件数
 実施料
 件数
 実施料
 件数
 実施料
 件数
 実施料
 件数
 実施料
 件数
 実施料

 0
 0
 2
 315
 1
 1,875
 2
 4,015
 2
 1,185
 5
 1,557



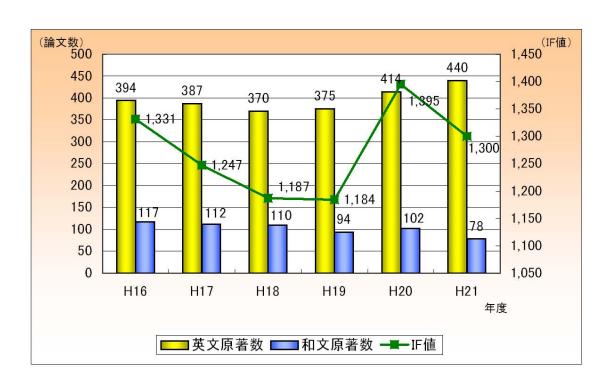
2-6 科学研究費補助金

H16	年度	H17	年度			年度	H20年度		H21年度		
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
112	258,279	144	353,214	134	294,110	139	339,610	136	380,780	142	352,521



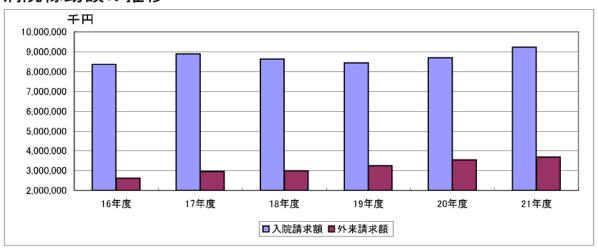
2-7 原著論文数

	H16	H17	H18	H19	H20	H21
英文原著数	394	387	370	375	414	440
和文原著数	117	112	110	94	102	78
IF値	1,331	1,247	1,187	1,184	1,395	1,300



3-1 法人化後の病院診療統計等

病院稼動額の推移



病院稼動額は、18年度診療報酬改定(マイナス改定)があり減少したが、 法人化後の16年度に比べ19.2億円の増加となっている。

入院患者及び外来患者(年間延数)

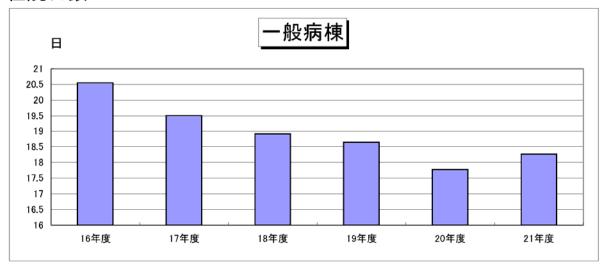


入院患者数は、在院日数の短縮(一般病床16年度20.55日→21年度18.26日)、 により減少。21年度は新病棟への移転があり患者制限を行い20年度より減少。

外来患者数は、在院日数短縮に伴い増加。法人化後17年度に設置された 地域連携室の外来予約制度の整備により患者紹介率が大幅に向上し増加した が20年度診療報酬改定(後期高齢者医療の実施等)により減少。

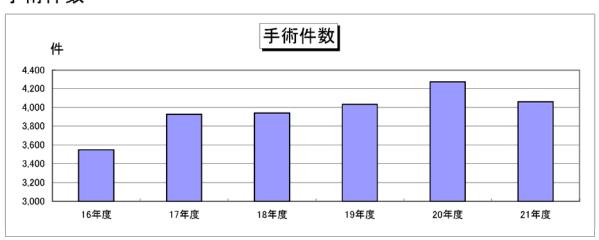
19~21年度は、診療科医師の欠員が多く患者減少に繋がっていると思慮できる。

在院日数



一般病床の在院日数は、16年度20.55日から21年度18.26日と大幅に短縮。

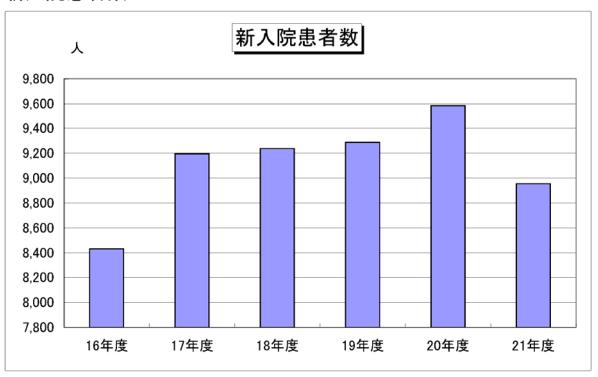
手術件数



手術室を使用した手術件数は、16年度3,548件から20年度4,270件と722件の増加。

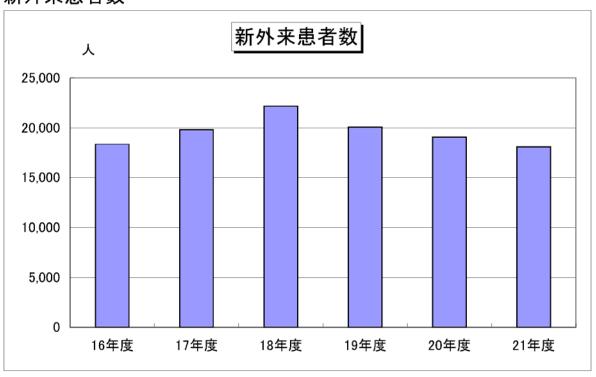
法人化後の17年度には、麻酔科医師を診療助手として2人増員し、手術室の効率 的使用に取り組み、手術件数が大幅に増加。20年度は形成外科設置により手術件数増加。 21年度は、新病棟への移転により手術制限を行い減少。

新入院患者数



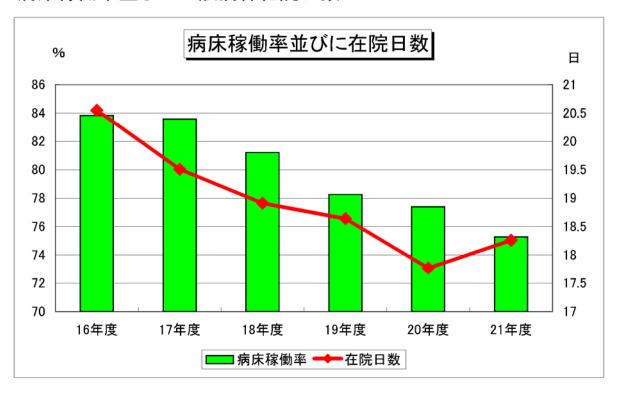
21年度は、新病棟移転に伴い、手術、検査入院を制限したことによる減少。

新外来患者数

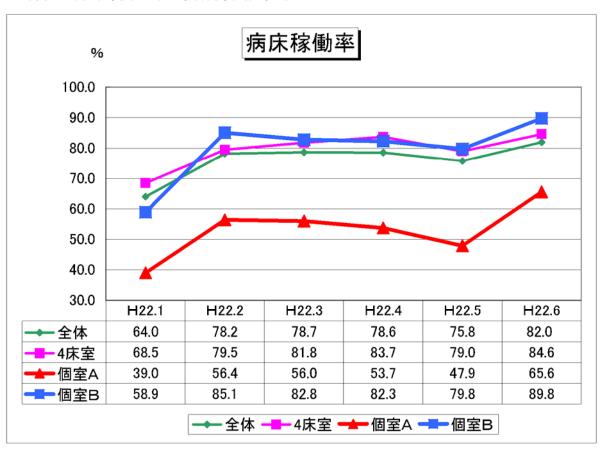


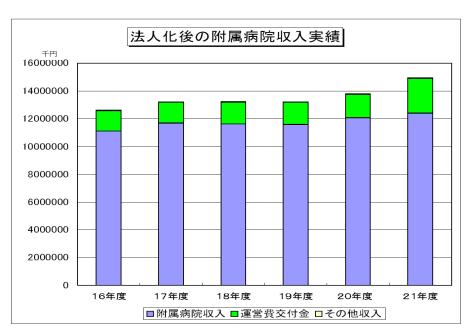
19年度以降減少傾向であるが、保険割合の増、後期高齢者保険制度等により来院患者が減少しているものと思慮される。

病床稼働率並びに一般病棟在院日数

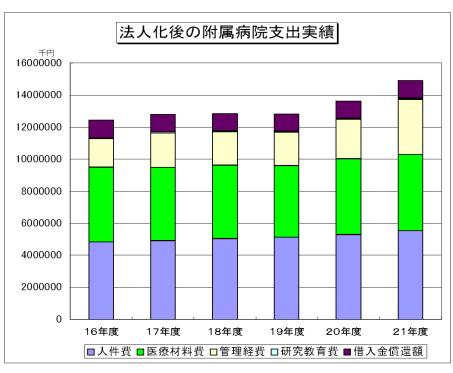


差額室病床稼働率(新病棟移転後)



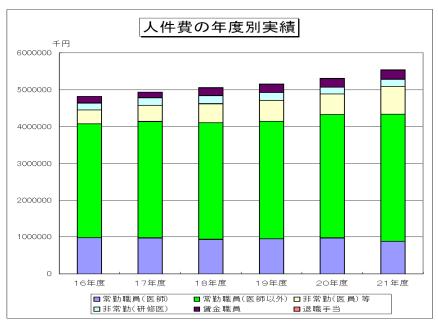


(単位: 千円) 21年度 12,407,206 [収 入] 16年度 11,121,087 20年度 12,070,820 1*7年度* 11,692,958 18年度 11,629,706 1*9年度* 11,592,406 附属病院収入 運営費交付金 その他収入 収入額計 1,463,928 1,483,380 1,549,142 1,591,852 1,688,552 2,494,611 27,877 13,212,135 43,015 44,901 62,449 43,530 43,244 13,221,239 12,628,030 13,241,297 13,802,902 14,945,061

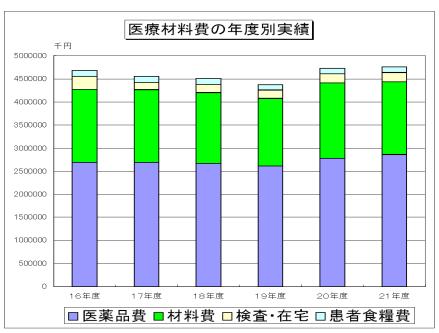


【支 出】						(単位:千円)
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
人件費	4,823,562	4,936,919	5,056,805	5,154,996	5,307,565	5,550,572
医療材料費	4,681,710	4,551,999	4,575,861	4,453,962	4,727,979	4,756,153
管理経費	1,771,239	2,140,707	2,083,996	2,086,362	2,450,415	3,426,441
研究教育費	60,156	77,684	62,285	58,944	63,758	71,476
借入金償還額	1,099,987	1,083,656	1,058,316	1,062,495	1,059,650	1,088,342
支出額計	12,436,654	12,790,965	12,837,263	12,816,759	13,609,367	14,892,984

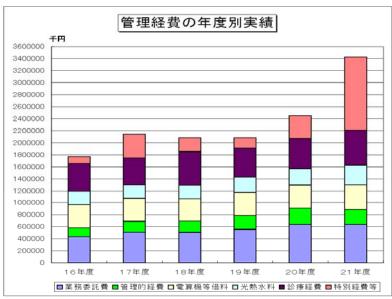
※研究教育費の光熱水料は管理経費に計上



【人件費】		(単位:千円)							
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度			
常勤職員(医師)	977,779	974,027	937,413	948,189	973,313	880,403			
常勤職員(医師以外)	3,101,832	3,167,557	3,171,256	3,199,372	3,353,220	3,455,740			
非常勤(医員)等	375,861	433,316	513,989	563,001	555,907	752,637			
非常勤(研修医)	184,602	210,076	219,947	215,397	183,491	197,352			
賃金職員	183,488	148,402	206,060	220,217	232,899	249,457			
退職手当	0	3,541	8,140	8,819	8,733	5,077			
支出額計	4,823,562	4,936,919	5,056,805	5,154,995	5,307,563	5,540,666			



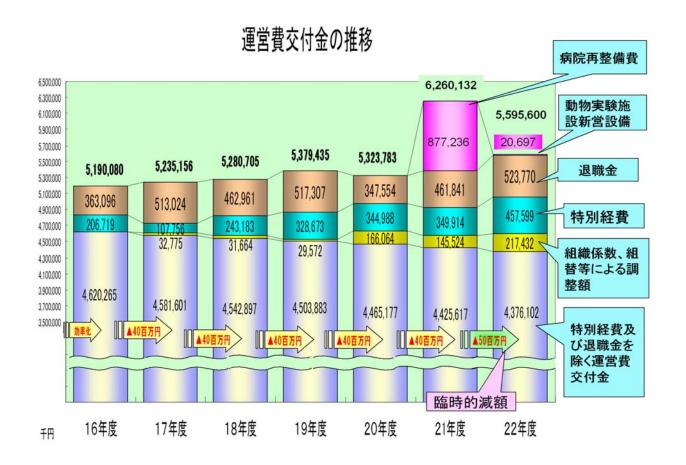
【医療材料費】 (単位:千円) 16年度 17年度 18年度 20年度 21年度 19年度 医薬品費 材料費 2,614,772 2,696,827 2,693,016 2,671,262 2,782,119 2,864,767 1,572,290 1,571,342 1,531,158 1,626,497 1,569,571 1,460,899 検査・在宅 患者食糧費 282,693 129,900 156,377 131,264 176,637 124,938 180,634 116,324 200,558 118,805 199,749 122,066 支出額計 4,681,710 4.551,999 4,503,995 4,372,629 4,727,979 4,756,153



特別設備等(特殊要区) (20年度) 基盤設備 49.578 千円 (21年度) 基盤設備 499.343 千円 建物新営設備 356.835 千円 総転費 21.058 千円

【管理経費】				(単位:千円)		
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
業務委託費	430,025	507,175	504,557	553,862	633,626	634,615
管理的経費	149,609	179,489	184,167	229,878	272.182	251,687
電算機等借料	384,009	384,009	373,749	392.994	392,994	414,211
光熱水料	232,994	232,432	233,360	251,038	272,989	326,044
診療経費	461,620	443,750	559,180	485,845	500,409	582,497
特別経費等	112,982	393,852	228,983	172,745	378,215	1,217,387
支出額計	1,771,239	2,140,707	2.083,996	2.086,362	2,450,415	3,426,441

4-1 運営費交付金の推移



4-2 第1期中期目標期間の評価結果

(1)業務運営・財務内容等の状況

	年度等	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	中間	H20年度	H21年度	確定
項	業務運営の改善及び効率化	3	4	4	4	4	4	4	4
	財務内容の改善	3	4	4	4	4	4	4	4
別 評 価	自己点検・評価及び情報提供	3	4	5	4	4	4	4	4
一猫	その他業務運営に関する重要事項	3	4	4	4	4	4	4	4

〔5.特質すべき進捗状況 4.順調 3.おおむね順調 2.やや遅れている 1.重大な改善事〕

(2)教育研究等の質の向上の状況

		中間	確定
項目	教育	3	3
別 評	研究	3	3
価	その他(社会連携、国際交流等)	4	4

5.非常に優れている 4.良好 3.おおむね良好 2.不十分 1.重大な改善事項

4-3 教員数・職員数の変化

		H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
教授	男	49	51	51	51	53	56
	女	4	4	4	4	3	5
准教授	男	44	40	35	40	39	43
(助教授)	女	7	7	4	4	5	6
講師	男	37	36	38	37	35	32
마뚜마	女	8	9	11	11	12	11
助教	男	_	_	-	108	121	123
可致	女	_	ı	ı	31	35	36
助手	男	110	110	107	0	0	0
ш <u>т</u>	女	23	23	24	0	0	0
合計	男	240	237	231	236	248	254
	女	42	43	43	50	55	58

		H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
事務系	男	92	92	89	90	90	93
争伤术	女	35	37	38	34	33	33
技術技能系	男	43	43	42	40	40	35
汉州汉肥木	女	23	22	22	20	19	19
医療系	男	53	59	58	65	63	78
区原木	女	363	380	382	382	410	449
教務系	男	4	3	4	3	2	2
秋	女	5	4	6	4	4	4
その他	男	19	18	18	17	15	13
COLE	女	0	0	0	0	0	0
合計	男	211	215	211	215	210	221
	女	426	443	448	440	466	505

4-4 人件費改革への取組

	人件費率	常勤				非常勤				計	削減対象
	八仟貝华	支給人員	人件費	退職金	小計	支給人員	人件費	退職金	小計	ñΙ	人件費
			万円	万円	万円		万円	万円	万円	万円	万円
平成16年度	48.50%	927	690,799	23,481	667,318	433	93,852	362	93,490	760,808	
平成17年度	49.90%	946	697,378	41,313	656,065	448	98,387	323	98,064	754,129	
平成18年度	49.50%	987	691,701	31,536	660,165	484	114,721	769	113,952	774,117	613,494
平成19年度	50.10%	935	697,940	36,723	661,217	518	127,752	636	127,116	788,333	609,404
平成20年度	48.60%	973	716,083	46,013	670,070	549	134,964	700	134,264	804,334	604,344

削減対象人件費	626,634
削減率	5%
目標人件費	595,302
削減額	31.332

4-5 財務分析指標の推移

財務分析指標の推移(平成16年度~21年度)

